

年頭のご挨拶

天然ガス鉱業会
会長 梶田 直

新年明けましておめでとうございます。

令和4年の新春を迎え、皆様には素晴らしい1年のスタートを切られたこと、お慶び申し上げます。

新年にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

コロナの動向が定まらない中、2年ぶりに賀詞交歓会を開催すべきかどうか、非常に悩みました。

昨年は中止しており、今年はなんとか皆様とお会いできないかと、開催方法を工夫するなどして開催を模索しておりましたが、年明けから新規感染者の拡大、オミクロン株の広がりなどあり、関係者の健康を一番に考え残念ながら中止を判断しました。

さて、昨年を少し振り返りますと、

引き続きコロナに振り回される中、東京オリンピック・パラリンピックが1年遅れで開催され、オリンピックでは過去最高の58個、パラリンピックでは過去2番目の51個のメダルを獲得するなど、選手の活躍が目立ちました。

また、将棋界では藤井聡太竜王の最年少での4冠達成、アメリカ大リーグでは大谷選手が日本人2人目のMVP獲得と、明るいニュースも続きました。

一方、石油・天然ガスの関連では、

国内では、電力の安定供給が危惧される中、2050年カーボンニュートラル実現を目指すため、温暖化ガスの排出を2030年までに46%削減し、更なる高みを目指すとの目標のもと、秋には第6次エネルギー基本計画が閣議決定されました。

また、海外においても、COP26が開催され、パリ協定における1.5°Cの気温上昇抑制の目標達成に向け、野心的な気候変動対策が締約国に求められる状況下において、原油・天然ガスの価格が高騰し、欧州では天然ガスの不足が大きな問題となりました。

このように昨年は、気候変動対策を進める中で、エネルギーの安定供給も極めて重要であることを、浮き彫りにした1年であったのではないかと考えております。

我々、国産天然ガス業界は、微力ではありますが、日本のエネルギー安全保障の一端を担っております。

引き続き国産天然ガスの開発・生産を推進して、安定供給に貢献すること、これが先ずは、我々の一番の使命であり、その上で、カーボンニュートラルなどの気候変動対策にも積極的に取り組んでいくことが、企業の社会的責任と考えております。会員企業の皆様の健闘を期待したいと思います。

また、事業を維持・拡大しながら、これらに取り組むことは、今までにない困難が伴うと思われますので、関係行政機関におかれましては、今後とも引き続きご指導、ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様の益々のご健勝と会員・会友の益々のご発展、さらにはコロナの早期収束を祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

以上